

令和七年 第三回

七宝会公演

思へば伊勢と三輪の神
一躰分身の御事

弓を袋に入れ
劍を箱に納るこそ
泰平の御代のしるしなれ

能

「三輪」

澤田 宏司

狂言

「柿山伏」

善竹 隆平

能

「弓八幡」

辰巳 和磨

◆9月27日(土) 16時開演(15時半開場)

◆枚方市総合文化芸術センター本館

関西医大大ホール

最も古典にして
最もアヴァンギャルドな芸能
能楽をみなぎりに

七宝会
宝生流

令和七年 第三回 七宝会公演



【番 組】

能 「弓八幡」

老翁 辰巳 和磨 大鼓 山本 寿弥 太鼓 中田 弘美
高良の神

男 上野 能寛 小鼓 成田 達志 笛 貞光 智宣

臣 下 江崎欽次朗

従者 松本 義昭

従者 大坪 賢明

八幡山下 善竹 忠亮

狂言 「柿山伏」

山 伏 善竹 隆平 畑主 小西 玲央 後見 上吉川 徹

能 「三輪」

里女 澤田 宏司 大鼓 守家 由訓 太鼓 上田 悟
三輪明神

玄賓僧都 江崎欽次朗 小鼓 吉阪 一郎 笛 赤井 啓三

所の者 善竹 隆司

日時 令和七年九月二十七日(土) 十六時開演(十五時半開場)

会場 枚方市総合文化芸術センター 本館 関西医大大ホール

料金 指定席 5,000円 自由席 3,500円 学生 2,000円

◆スマホde解説

「衆我財団」様の支援事業として、お客様ご自身のスマホをお使いいただき、ご自身のイヤホンで解説をお聴きいただけるサービス提供が始まりました。ご希望の方はスマホとイヤホンをご持参のうえ、ご体験くださいませ。

【解説】

◇ 能 「弓八幡」 ゆみやわた

後宇多天皇の家臣が男山八幡宮(石清水八幡宮)に参拝していると、錦の袋に弓を入れた老人と出会う。どこから来たかと尋ねると「当社に永く仕えている者で、桑の弓を天皇に捧げようと待っていた」と答え、神代には桑の弓と蓬(よもぎ)の矢で天下を治めたというが、今は泰平の世なので袋に納めて捧げるのだと説明する。そして自分は八幡宮の神託を伝えるために来た高良(かわら)の神である」と言い姿を消す。その後天より妙なる音楽が聞こえて高良の神が現れ、国土安全、平和の御世を讃えて舞を舞う。

◇ 狂言 「柿山伏」 かきやまぶし

修行を終えた山伏は故郷へ帰る道中、喉の乾きを癒そうとして立派な柿の木を見つける。苦心の末、ようやく柿を食べていると、見廻りに来た柿畑の主人に見つかってしまう。木のかげに隠れた山伏をからかってやろうと、わざと「あれは鳥だ」「猿だ」と声に出す。正体がばれないように山伏は、そのたびに鳴き声を真似するが…。

◇ 能 「三輪」 みわ

三輪山中に庵を結ぶ玄賓僧都のもとに、いつもやって来ては花水を捧げる女がいた。ある日、夜寒をしのぐ衣を玄賓から授かった女は、自分は三輪の里に住む者だと名乗ると、杉の木を目印に訪ねて来てほしいと告げ、姿を消す。そこへ里の男が訪れ、玄賓の衣が三輪明神の神木の杉に懸かっていたと教えらる。実は先刻の女こそ明神の化身であった。玄賓がその神木のもとへ行くと、三輪明神が出現し、玄賓に感謝を述べる。明神は、自ら罪を背負うことで人々を仏道へ導くわが身の行いを明かし、いにしえ男の姿で現れ一人の女のもとへ通った故事を語る。明神はさらに、先刻の受衣こそが罪の苦しみを和らげる法の恵みであったと明かすと、その礼として天岩戸の神祕を見せ、神道の奥秘を玄賓に伝えるのだった。

◆ 令和七年 七宝会年間会員について

年会費 13,000円

◎ 年間4公演のうち、普及公演を除く3公演の指定席代金15,000円を13,000円でご提供いたします。

◎ 発売・予約開始は、会員は60日前(一般は50日前より)。

◎ 年度途中からでも会員にお申し込みいただけます。

宝生流 七宝会

〒572-0009

大阪府寝屋川市末広町11-8 辰巳方

TEL 072-831-3206

FAX 072-832-5115



枚方市総合文化芸術センター 本館
関西医大大ホール
大阪府枚方市新町2-1-60

京阪電車「枚方市」駅から徒歩約5分